

上益城教育事務所の分析結果と今後の取組

1、成果及び課題

(1) 成果

- 教科の調査の結果から、全国平均を超えている問題が小学校国語・算数で10問、中学校国語・数学・英語で13問であった。全国平均を超えた問題の多くは知識・技能の観点であった。
- 質問紙調査の結果から、児童生徒質問紙調査では、小・中学校ともに、地域に関することが上位に入っており、上益城管内の子供たちが地域とともに成長し、郷土愛が育まれている。学校質問紙調査では、小・中学校ともに小・中連携に関する肯定回答の割合が高く、中学校区での充実した取組で学校間及び教員同士の連携が図られている。

(2) 課題

- 教科の調査の結果から、小学校においては、全体的に思考・判断・表現を観点とする問題に対して課題があり、授業においては、読む力を高めること、見方・考え方を働かせながら課題解決し、自分の考えをもって記述することができるよう指導する必要がある。中学校においては、知識・技能及び思考・判断・表現どちらの観点においても課題がみられ、基礎基本の定着とともに、記述したり説明したり表現したりする力の育成が必要である。
- 質問紙調査の結果から、小・中学校ともに「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」という問いに対する評価が低く、児童生徒が安心して学校生活を送ることができるよう、「熊本の教師の心がけ10か条」を全職員で共通理解、共通実践する必要がある。

上益城教育事務所の分析結果と今後の取組

2、今後の重点取組

1 各学校、各町教育委員会による結果分析と共通理解・共通実践

- ・全国学力・学習状況調査の解説資料や報告書を活用し、全教員による、問題、質問項目ごとの考察を行い、課題や解決に向けた共通実践を図る。
- ・考察した成果や課題を児童生徒と共有し、教員と児童生徒が課題解決に向けた取組を一緒に考え、児童生徒が主体的に学びに向かうことができるよう、授業改善を図る。

2 学校組織マネジメントを生かした授業改善

- ・管理職等による日々の授業の観察、及び教員一人一人の授業力向上や人材育成に向けての指導助言を行う。
- ・単元全体を通して、「自分で考える」「自分で課題を設定する」「自分の考えを工夫して発表する」「自分の学びを振り返る」など、児童生徒を「学びの主体」とする指導を充実させる。

3 安心と信頼にあふれ、高め合う学級づくり

- ・児童生徒が安心して大人に相談できる環境をつくるために「熊本の教師の心がけ10か条」等を全職員が共通理解し、共通実践を図る。

4 「『熊本の学び』アクションプロジェクト～上益城R5～」の推進

- ・児童生徒が分かる喜びを実感し、「分かるまで指導してもらった」と感じるような「まとめ、振り返り」の時間を十分確保する。
- ・児童生徒が生涯主体的に学び続けることができるよう、家庭学習の習慣を身に付けるために、授業と家庭学習を意識的に関連付ける等、学校総体とした取組を充実させる。